

専徳寺報

第490号

令和7年9月12日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

岩国 専徳寺

検索

専徳寺納骨堂受付中

あきさんぶつえほうよう
秋讃仏会法要
(併修終戦80周年戦没者追悼法要)

御案内

秋のお彼岸をご縁に法座を開きます。ご講師は初めてのご来寺です。たくさんのお参りをお待ちしております。

日程

9月26日(金) 昼 1時半～3時半
27日(土) 朝 10時～12時

ご講師

本願寺布教使

水杉 悟史 師(兵庫県西脇市)

●法座の後に送迎いたします(市内のみ)

●参拝セット

①お念珠・②聖典・③門徒式章・④聴聞カード

秋の展示会

●作品募集―秋の展示会
ご門徒の方の作品を展示いたします。

絵画・手芸品・工芸品等、ご門徒皆様の作品を募集いたします。法要前日(25日)までにお持ちください。再来月の永代経法要まで展示させていただきます。



ベツト

鈴木 章子

説法はお寺でお坊さまから聞くものと思ってましたのに…

肺癌になってみたら

あそこ ここと

如来さまのご説法が

自然にきこえてまいります

このベツトの上が

法座の一等席のようです



詩の作者は46歳で人生の幕を閉じました。次々と癌が転移していく入院生活の中、ベツトの上でたくさん

の詩を書き残しました。病という現実、私たちにとって

苦しく、避けたいものです。しかし、そんな場所でも「仏さまの声を最も近くに聞ける場」と気づ

かされるお念仏です。

健康なときには遠くにあった「いのちの意味」や「生かされている真実」という仏法の言葉が、病床の静けさの中で耳に届きます。息をしていることも、光が差し込むことも、周りの環境すべてが如来の説法として心に沁みてきます。

法座は特別な場所だけにあるのではなく、「いま・ここ・私一人」と向き合うその場こそが、仏法をいただく「一等席」となります。

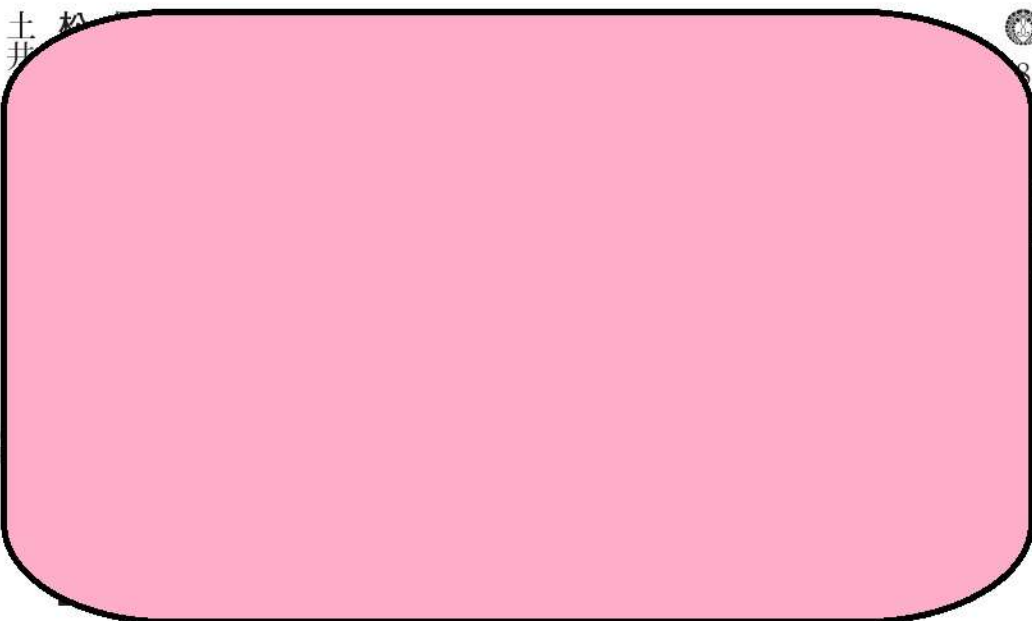
どうぞ、今日この時も「南無阿彌陀仏」と口ずさむ中に、「ここも法座でした」と、仏さまの声をすましてくだされば嬉しく思います。

(文責 住職(とAI))



寺内だより

●み仏にいだかれて「葬儀勤修」



ついたち礼拝（月のはじめをお寺から）

10月1日、11月1日 午前9時より45分間。正信偈和讃・法話。

専徳寺報が掲載



僧侶向けの雑誌『月刊住職』九月号の寺報特集に紹介されました。いつも皆さまからいただく励ましのおかげです。これからもコツコツと寺報作りに励みたいと思います。

※紙面は別紙に

法要余香【歡喜会法要】

8月29日・30日、残暑厳しい中多くの方がお参りくださいました。ご講師は坊守の兄木下明水師。「私の事で頭を一杯にしてください」法蔵菩薩（阿弥陀仏）のみ教えを、終始笑いあり涙ありの法話でとりつぎくださいました。

長明寺仏教壮年会来寺

9月2日、福岡教区西嘉穂組長明寺（住職・花田照夫）の仏教壮年会がお参りくださいました。前住職さんを含め総勢15名。結成六十周年の記念として「住職さんの故郷に行こう」と企画してくださいました。

